

## 会 議 要 録

|          |   |  |
|----------|---|--|
| 会 議 名    |   | 平成 30 年度 第 2 回 小平市青少年問題協議会   |
| 日 時      |   | 平成 31 年 2 月 8 日（金）午後 1 時 30 分～午後 3 時 5 分                           |
| 場 所      |   | 小平市役所 6 階 大会議室   |
| 出席者<br>等 | 委 員   | 14 名（欠席者 3 名）  |
|          | 事務局   | 子ども家庭部長、家庭支援担当課長、生活支援課長、地域学習支援課長、<br>教育施策推進担当課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長 |
| 傍 聴 人    |   | 1 名  |
| 会議<br>内容 | 1 開 会<br>2 議 事<br>(1) 第 2 次小平市青少年育成プランの平成 29 年度推進状況について<br>3 情報交換・意見交換<br>4 閉 会   |  |
| 配付<br>資料 | 会議次第<br>席次表<br>第 2 次小平市青少年育成プラン推進状況調査報告書 ―平成 29 年度実績―<br>資料 1 平成 29 年度 子ども家庭支援センター 相談件数<br>資料 2 平成 29 年度 ティーンズ相談室 相談件数<br>第 15 回 小平よさこいスクールダンスフェスティバル in2019<br>第 12 回 多摩六都ヤング・ダンスフェスティバル<br>ひまわり 第 39 号（平成 30 年度）「社会を明るくする運動」作文集<br>平成 30 年度版 こだいら子育てガイド<br>ひらく - 未来をひらく、心をひらく -<br>東京都青少年の健全な育成に関する条例のあらまし<br>平成 31 年度 小平市子どもの学習支援事業 個別学習教室受講生募集<br>小平市ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業 |  |

### ○ 会議内容等についての意見・質疑応答

#### 1 議事

##### (1) 第 2 次小平市青少年育成プランの平成 29 年度推進状況について

|     |  |
|-----|--|
| 委 員 | ティーンズ相談室の職員の資格は。また、どのような場合に家庭訪問をするのか。  |
| 事務局 | ティーンズ相談室の職員は、2 名体制で社会福祉士や保育士の資格をもっている。この事業は、子ども本人への支援を主な目的としている。本人の希望があれば家庭訪問を実施している。また、保護者からも子どもがひきこもりがちである等の相談があれば応じている。 |
| 委 員 | ティーンズ相談室は 19 歳までが対象となっているが、相談件数で 20 歳以上が多い、20 歳以上の利用者の対応はどうしているのか。   |

|     |  |
|-----|--|
| 事務局 | この事業は、対象が19歳までであるが、これまで相談・利用していた方が20歳以上となり、継続して利用しているケースがある。誕生日が来たからといって、それ以降利用できないようなことはしていない。ティーンズ相談室では、ゆるやかに自立につなげることを目的としているので、年齢が超えても利用を希望すれば対応している。  |
| 委員  | 7ページ No.37 職場体験について、施設で職場体験を受け入れている。職場体験の実施内容を学校にフィードバックしているが、子どもたちが体験後にどのような感想をもったか、体験をどのように活かしていくかといったことがわからないので教えてほしい。  |
| 事務局 | 事前学習、当日の体験、事後の振り返りが大事である。市ではわくわくワークシートという職場体験のワークシートを作成し、使用している。ワークシートには、フィードバックについての内容もあるが、事業所の方には伝わりづらいと指摘をいただいている。子どもたちから事業所の方へのお礼の手紙の中に、どのようなことを学んだかを具体的に書くように指導している。文部科学省でキャリアパスポートという小・中・高一貫したキャリア教育の教材を作成中であるが、この教材の中に職場体験をどのように自分のキャリア発達に活かしていくかという内容があるので、市のワークシートの改善の参考にしたい。 |
| 会長  | 以前、職場体験に関わる仕事をしていた。職場体験がはじまる前は、職場見学として1日だけ見学するものだった。2～3日職場体験を実施している自治体はあったが、5日間の自治体はなかなかなかった。2～3日の体験ではその職場の大変さが見えてこない。市が5日間の職場体験に取り組んでいるのは、すばらしいと思う。   |
| 委員  | 保育施設で職場体験を受け入れている。中学生には保育士と一緒に子どもを見守ったり、おもちゃを清掃したりしてもらっているが、小さい子どもへの対応はさせていない。他の自治体で、外遊び時に事故があった事例があり、職場体験の最初のガイダンス時に説明し、中学生に理解してもらい、子どもの安全安心を考えて実施している。   |
| 委員  | ティーンズ相談室について、相談経路の統計はとっているのか。  |
| 事務局 | 相談経路については、関係機関からつながるケースが多い。事業開始時にカードサイズの広報媒体を学校に配付したほか、職員が市立中学校全校を訪問し、ニーズがある子どもをつないでほしいとお願いした。<br>相談経路の統計はとっていないが、紹介なしに本人が自ら相談してくるケースは少ない。子ども家庭支援センターで支援している子どもをつなげているケースもある。  |
| 委員  | 親子ではなく、子どもたち一人ひとりを支援する事業であると思う。<br>関係機関や学校の先生から紹介されてつながることは重要であるが、子どもたちが気軽につながるようになればいいと思うので、どのようにどこで知ったかを調べるのは大事である。SNSなどの活用については、検討しているのか。   |
| 事務局 | メールアドレスについては、周知のため配付しているカードにQRコードを入れている。LINE相談に取り組んでいる自治体はあるが、即時のやりとりなど相談員のスキルや体制の整備の面で難しい部分がある。若者に受け入れられる相談方法については、半年ごとに事業の振り返りをする中で、引き続き検討していきたい。  |

|     |   |
|-----|---|
| 委 員 | 目黒区や千葉県野田市での児童虐待事件があり、虐待相談が非常に増え、一時保護の件数も非常に増えている。関係機関の危機感が非常に高まっている。一時保護施設や乳児院への入所が難しくなっているため、病院への一時保護委託や里親など民間を活用せざるを得なくなっている。今後、危険度を判断するアセスメント能力の向上が必要と考えている。  |
| 委 員 | 児童養護施設では、毎日のように都内全域から一時保護の依頼がきている。定員があるため、年齢により受け入れられないことがある。家庭への復帰も慎重になっている。子どもたちが安全に過ごせるように、できる限り受け入れに努めている。  |
| 委 員 | 青少対の活動は、20 年前よりも幼児、小・中・高校生、地域の人との交流が盛んに行われ、意義が高まっている。平成 30 年度の市の補助が少し減額となったとのことだが、活動のための予算は足りているのか。   |
| 委 員 | 青少対の活動への、補助が減額となったが、やり方を変え工夫して活動している。   |
| 委 員 | 子どもたちが異年齢の人たちとの交流の中で、こんな良いことがあったなどの声があれば教えてほしい。   |
| 委 員 | 青少対の活動をしている。神社でもちつき大会を行ったときに、中学生が釜を洗ったり、もちをついたりといろいろな手伝いをしてくれた。地域の人でも行事を楽しみに手伝いに来てくれる。中学生からは、また手伝いに来たいという声をいただいている。   |
| 事務局 | 地域学習支援課では、多くの体験活動を支援している。青少対の活動は、主に小学生を対象に各小学校区で実施している。イベントには、卒業した中学生が遊びに来たり、中学校のボランティア部として手伝いに来たりといった交流がある。また、子どもたちを見守っていただいている地域の人たちからは、子どもたちから元気をもらったという声もいただいている。青少対の活動は、子どもたちの交流だけではなく、子どもと大人の交流にも効果があると考えている。 |

## 2 情報交換・意見交換

|     |   |
|-----|---|
| 委 員 | <p>子ども・若者計画の策定に関わることができ、いろいろなことを知り、またやれることがあると思った。ここで知ったことを、広く伝えていきたいと思う。</p> <p>ティーンズ相談室について、元気村スタッフとティーンズ相談室との交流があると良いと感じた。</p> <p>異年齢の交流については、小学校で実施している放課後子ども教室において、地域のさまざまな人たちが活動し交流を深めている。自分もこういう大人になりたい、自分も大きくなって学校にこういう形で関わることができるなどと思い描く学びにもなっている。</p> <p>地域に目を向けると、不登校の子どもが増えてきていると感じる。知り合いに不登校児の保護者がいて、子どもの悩みを先生などに相談できない状況にあり、どのようなアドバイスをすればよいのか。</p> |
| 事務局 | 各中学校にスクールソーシャルワーカーを 1 人配置している。福祉・保健等の分野を専門とした職員で、スクールカウンセラーと違い、家庭訪問や同行支援も行っている。小学生であればスクールソーシャルワーカーからつないでもらえるので、相談していただければと思う。  |

|     |  |
|-----|--|
| 事務局 | <p>子ども家庭支援センターは、子どもと家庭の総合相談窓口となっている。適切な機関につながられるので、相談していただければと思う。</p>  |
| 委員  | <p>市に自分の意見を言える貴重な体験だった。市がいろいろな事業を実施していることがわかった。このような事業の情報をどのように市民と結びつけていくかが重要だと思った。</p>  |
| 委員  | <p>子ども、親、先生がとても生きにくい世の中になってきていると感じる。支援する人がより必要である。</p> <p>市の審議会等は昼間に開催しているため、いろいろな世代が参加できるように柔軟な対応も検討してもらえたらと思う。</p>   |
| 委員  | <p>協議会に参加して、委員のみなさんがいろいろな面から青少年問題を考えていることがわかった。</p> <p>学童クラブについて、保護者等からの要望が多様化していて、対応が難しくなっていくのではないかと感じている。</p>  |
| 委員  | <p>ティーンズ相談室でボランティアをしている。ティーンズ相談室は、自立を無理に進めるわけではなく、居場所としてとても良い環境にある。同じ施設内にあゆみ教室があり、つながられる環境にあり、こういう場所がもっと増えていけばと思った。</p> <p>会議に参加し、自分が知らないことがたくさんあることがわかってよかった。</p>   |
| 委員  | <p>協議会に参加しなかったら知らないことがたくさんあったと実感している。計画策定にも関わってよかった。</p> <p>情報を知らないために悩んでいる人がたくさんいる。ここに行けば相談できるといったことをもっと広めていきたい。</p>  |
| 委員  | <p>神社でどんど焼きや豆まきのイベントを行い、たくさんの人が来てくれたが、地元のイベントでも知らない人が多くいることがわかった。このようなイベントを通して、子どもたちは経験して得るものがある。</p> <p>市内の行事を市報などで周知できれば良いと思う。</p>   |
| 委員  | <p>子ども・若者計画の策定に携わったが、所属機関にフィードバックできているのかと自問自答している。</p> <p>協議会に関わった立場として、今後施策を広められればと思う。</p>  |
| 委員  | <p>保護司をしている。関わっている子どもが、勉強していないため間違った判断をし、偏った行動をしてしまうことがあった。更生施設では、手紙を書く、自分の意見を言える、資格を取るなどの勉強の場がある。きちんと勉強し、就職している子どももいる。一度過ちを犯した子どもたちが、再犯をしない仕組み作り、子どもたちに手を差し伸べることが重要である。</p> <p>第2次小平市青少年育成プラン推進状況調査報告書 P13 No.74 学童クラブについて、出席率が5割ぐらいとなっている。一見非効率に見えるが、親が安心できる環境があることも大事である。</p> |
| 委員  | <p>心配なのは保育園や幼稚園に行っていない所属のない子どもである。このような子どもが、地域社会とつながってほしい。市ではいろいろな事業を実施し、地域とつながれる機会を作っていてありがたいと思う。</p>   |
| 委員  | <p>児童相談所や市、関係機関と協力して児童虐待に対応している。子どもの面前での夫婦喧嘩による心理的虐待への対応が非常に多くなっている。</p> <p>少年犯罪は激減しているが、インターネット普及の影響が懸念される。小平市では非行少年などが見られなくなり、非常に安心できる環境にあると感じる。</p>   |

|     |  |
|-----|--|
| 委 員 | <p>青少対を長くやっている。いろいろな問題はあることは承知していたが、ここまで多岐にわたっているとは思わなかった。テーマをもっと絞って話があればよかったと思う。</p>  |
| 会 長 | <p>子ども・若者計画の策定に際しては、委員の意見を取り入れられたと思う。子どもを育てるのは、家庭や学校、地域社会である。昔は、地域社会の役割が大きかったが、ここにきて、地域社会の重要性が増している。行政も地域社会とのパイプ作りに積極的に取り組んで、良い流れであると思う。</p> |